

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	理事長 小菅貞一	法人・事業所の特徴	平成 20 年 6 月に併設するサテライト型特別養護老人ホームとともに開設されました。地域との交流が広がり、施設機能の地域還元を意識した事業所運営に取り組んでいます。医療的対応が必要な利用者に対して適切な医療サービスが受けられるよう、主治医との連携を十分に取り、併設施設の看護師との協力体制をとりながら対応に努めています。住み慣れた地域、自宅での生活がこれからも元気に続けられるように、「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な対応で、生活をサポートいたします。城西、城東、雄志中学校区が利用範囲ですが、車で往復 30 分程度での距離であれば、清里区、板倉区などの地域でも対応は可能です。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	瀬下 善人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	高田の郷地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	3 人	1 人	1 人	1 人	人	5 人	人	13 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認			◆事前資料から真摯に取り組んでいこうとする様子が伺えた。◆まじめに取り組んでおり評価しているが、個人的にはこんな細かいところまで必要なのかという思いもある。中の業務で忙しいのに、地域行事に参加したり利用者以外の地域住民に気を配るのは、理想ではあるが負担でないか。◆事業所評価で「利用者の地域の社会資源活用」を全体的な課題としてあげた。当施設も社会資源のひとつとして地域に貢献したいと考えている。◆施設内での状況が分かりにくいので、個々の対応について、具体的にしている事例が示されると評価しやすい。◆改善計画が具体的でないものもあったので、今後はより具体的な取り組みが話し合わればよいと思う。	事業所自己評価が挙げた改善計画を実行、達成できるように、途中経過を確認しながら意識して取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境			◆開設当初、空調の室外機音がうるさいことがあったが、相談し改善され現在は気にならない。◆利用者の立場から意見を述べれば「竜宮城の浦島太郎」のような心境で居心地が良い。職員の方々は親切に声をかけ対応してくれるのでありがたい。◆近所の方が利用しているが、自宅にいる時よりも元気になったと喜ばれていた。評判も良いと思う。◆1 階玄関すぐのスペースの活用方法について、開設当初より考えてきた。地域の方に入ってきてやすいようにお茶のみスペースとしたり、現在はキッズスペースとして活用している。施設の利用者、地域の方、職員等の状況によっては、新たな活用の仕方があるのではないかと考えている。	利用者が居心地のよい環境で過ごしていただくことはもちろん、地域の方が施設に入りやすい環境を整備し、互いに交流を深めたり、困りごとの相談がいつでもできる場となるよう働きかけを行う。
C. 事業所と地域のかかわり			◆地域に「ふえふき通信」が回覧板などで回ってきており、地域住民にも笛吹の里は認知されている。◆施設の場所がよくわからないという意見があり、平成 27 年度予算で案内看板を設置することになっている。◆生活地域の行きやすい場所に相談できる施設があるのは地域住民にとって心強いと思います。◆施設があるのは分かるが、小規模多機能型居宅介護のサービス内容がよくわからないという意見もある。特養入所申込に来られた方にケアホームの説明をさせていただくと興味を持たれる方が多いので、もっと施設のことを知っていただくための働きかけを行う必要がある。◆前回開催された「ふえふき喫茶」では、「食」についての勉強会や施設案内をしていただいた。納涼祭など地域が一体となつて行う行事など、一般の人が施設を経験するには有効な取り組みだと思ふ。	事業所パンフレットの刷新、施設案内看板の設置、ふえふき喫茶等の地域向け行事を開催し、施設のことをより多くの方に知っていただく。気軽に相談できる雰囲気作り、地域の方との交流を深めていきたい。

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを ささえる取組み</p>			<p>◆以前利用したことがある施設でも地域行事に全員ではないが利用者連れて出ていた。無理のない範囲で地域との関わりを持つのは良いことだと思う。◆業務に支障のない範囲で、利用されている方を最優先にしながら、ともに楽しんだり、生きがいを感じられるように参加できる形がベストと思う。◆近隣住民が散歩をしている姿をみれば、こちらから声を掛け、お茶飲みに誘い施設に入っただけがこれまでもありました。◆地域の要介護者やその状況について施設のほうでも把握し、一部の方については施設側も気にかけており、担当ケアマネジャーとも連絡を取っている。◆認知症のある方を介護するというのは、本人はもちろん、家族にも相当の負担が掛かる。認知症についての説明や認知症家族の会などの案内など配布するなどして、介護負担の軽減やアドバイスができればよいと思う。◆町内で歳之神を行う際、実際に火をつけるのは夜間なので、利用者が参加されるのは難しいと思うが、窓からでも見てもらえばいいと重い毎年声をかけている。◆どのような地域行事が行われているか把握し、利用者とともに参加する機会を多く持ちたい。</p>	<p>地域で行われる行事を把握して、利用者が楽しく参加、交流が図れるよう、日ごろから地域の方と関わる機会をもつ。 地域の要介護者やその状況を把握し、地域の社会資源のひとつとして関わりを持つ。</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>			<p>◆施設運営や行事などの運営推進会議の都度報告を受けて、分かりやすく説明されている。◆個別の事例検討は運営推進会議の議題としてではなく別の機会を設けて実施したほうが良いのではないと思うが、民生委員、地域包括支援センター、市の担当等がそろう機会が少ないので、この場を活用し、様々な話し合いが行われればよいと思う。◆介護サービスをほとんど利用しないまま亡くなる方も多くいらっしゃる中で、地域内全ての方を地域包括支援センターで関わり対応することは難しいと思う。地域の民生委員が収集した情報を運営推進会議の場で話していただいたり、事例としてあげていただくことも必要だと思うし、この会議をうまく活用していただきたい。</p>	<p>施設運営のみならず、それぞれの立場、役割を持つ委員が一堂に会する運営推進会議を活かし、地域がもつ課題、心配ごとを把握して、必要な対応につなげられるような話し合いの場としての機能を強化する。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>			<p>◆施設の避難訓練に参加している。夜間に火災があった時は、職員が少ないことがわかっているので、協力したいと考えている。◆避難訓練は数をこなしていかなないと意味がなくいざという時に動くことができないと思うので、これからも実施する際は参加したい。◆池町内の指定避難場所は上雲寺小学校であるが、遠くてそこまで行けないという人も多くいる。近くの笛吹の里を一時的にでも、いざという時に活用することができれば非常に助かると思う。藪野町内も三郷小学校が指定避難場所、同様に考えている。◆過去の議事録でも施設側から積極的にそういった呼びかけを行っていることがわかり感心している。◆施設には災害ごとに対応を決めたマニュアルがある。今後も訓練を重ねていくとともに、広域災害などの有事の際は、地域住民の一時的な避難場所としても施設を開放していきたい。</p>	<p>年2回の自衛消防訓練のほか、連絡網通報訓練、研修を実施し、職員の防災意識を高める。 災害発生における地域での協力体制の構築、強化を図る。</p>